

『地域おこし協力隊3年目の夏を越えて』



「辿り着かないよりも、たどり着けない方がまだマシさ」・・・そう心に刻み、走り続けた協力隊街道。鬼石振興課の一員として、人口減少や空き家対策、移住促進に全力で取り組みました。現場に足を運び徹底的に調査を重ね、所有者の気持ちを第一に考えた空き家紹介制度「おにしん家」を立ち上げ、現在23軒を登録、うち4軒のマッチングに成功しています。

地域おこし協力隊 活動報告Ⅱ

たかお新聞

8-9月号

2025.9.22

[制作]

鬼石総合支所
地域おこし
協力隊



そして、夏の締めくくりとして、人口減少により途絶えていた夜店を復活させる「鬼石夜市」に準備段階から参加しました。移住者と地域住民が世代を超えて交流できる場をつくり、竹灯籠のオブジェを囲んで盆踊りや迫力ある太鼓演奏が披露され、大勢の来場者で賑わいました。私もオリジナルソング「マイビートル」復刻版を披露し日頃の感謝を歌で伝えることができました。挑戦と交流が重なり合ったこれら地域おこし活動は、鬼石の未来を照らす一歩になると信じています。

地域おこし協力隊『学びの宿』



全国の多くの協力隊員が抱える共通の悩み・・・それは「ミスマッチをどう克服するか」。先進地域のアドバイザーから伝授された克服プログラムを基盤に、自らの経験を加味し「協力隊学びの宿」を開設しました。隔週開催で3か月間学んだお試し一期生3名がこのたび卒業。それぞれが順番に今後の目標と計画を力強く発表してくれました。

編集後記

退任後は、培った経験と学びを活かし、遊休資産を掘り起こし、人と地域と資産を結ぶマッチング事業を興します。神流川の流れのように循環し続ける地域づくりを目指して。運命のほし農の計画・・・「永遠に」

【編集担当】 星野 貴男